

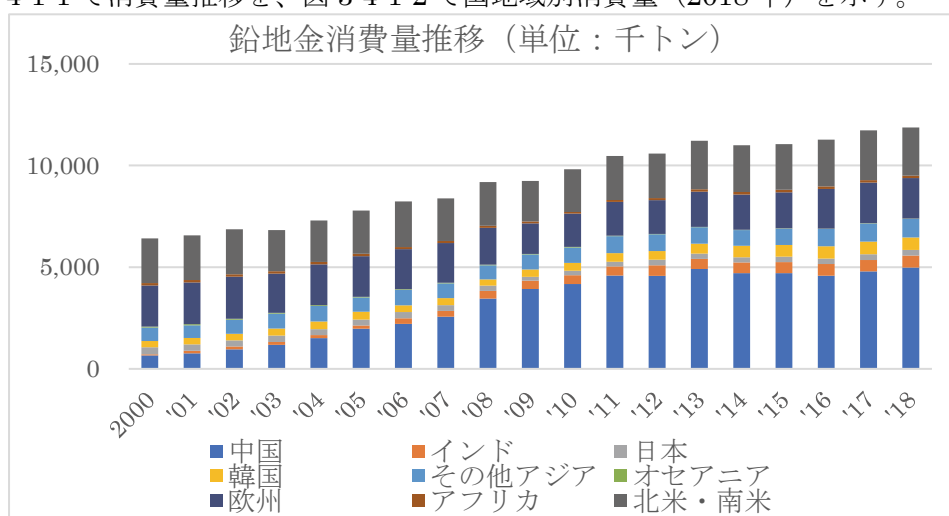
3.4. 鉛の需給

鉛は後段で詳述するがリサイクル率が 60%程度と高い上に、亜鉛製錬の副産物としても回収される新規鉛生産量も加わるために、世界の鉛生産量は増加傾向が継続している。では、鉛地金の国際需給から見ていくこととする。

3.4.1. 鉛地金の国際需給

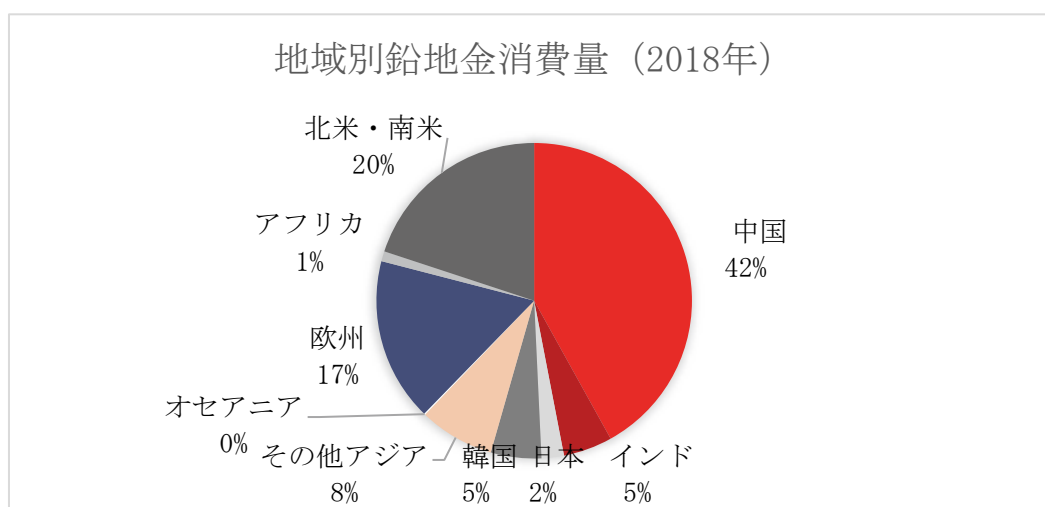
世界の鉛需要は 2000 年以降増加傾向であり、この約 20 年間でほぼ倍増している。

図 3-4-1-1 で消費量推移を、図 3-4-1-2 で国地域別消費量（2018 年）を示す。



（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

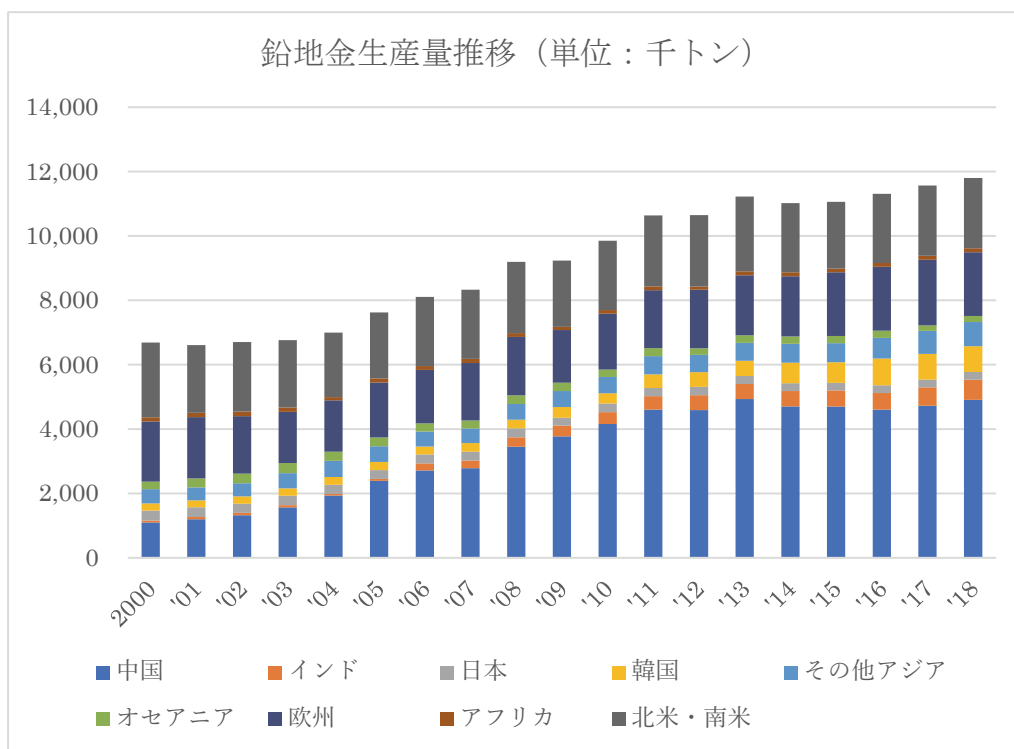
図 3-4-1-1 2000～2018 年世界鉛地金消費量推移



（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

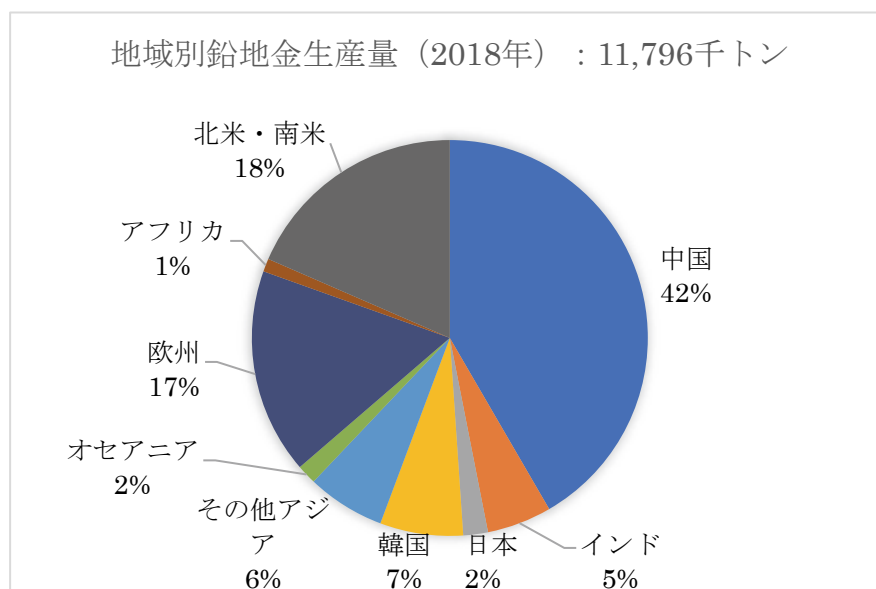
図 3-4-1-2 地域別鉛地金消費量

次に、世界の鉛生産量推移を示すが、鉛消費量推移と同じような傾向を示している。
 図 3-4-1-3 で生産量推移を、図 3-4-1-4 で国地域別生産量（2018年）を示す。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

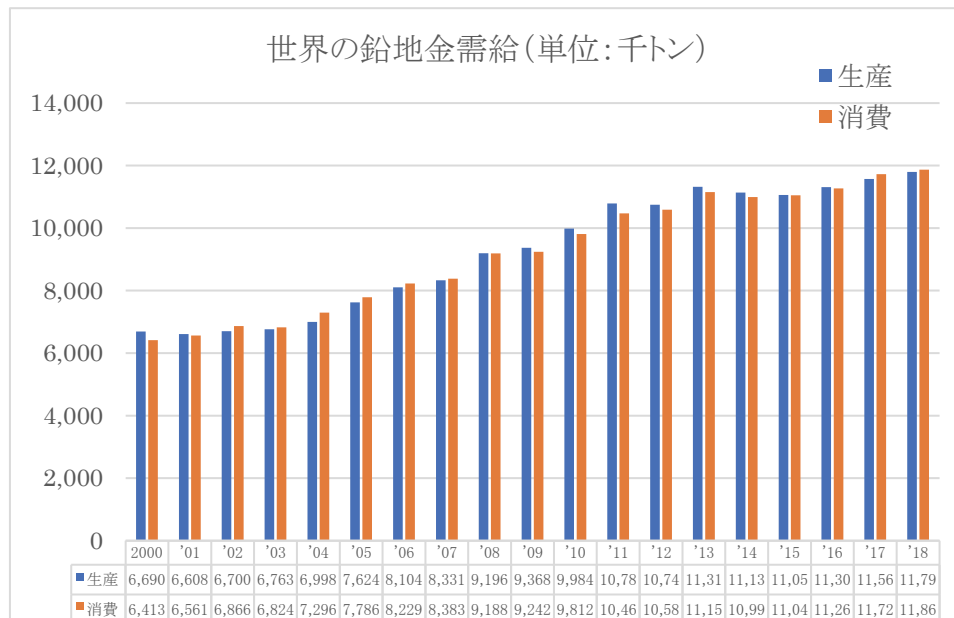
図 3-4-1-3 2000～2018 世界鉛地金生産量推移



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

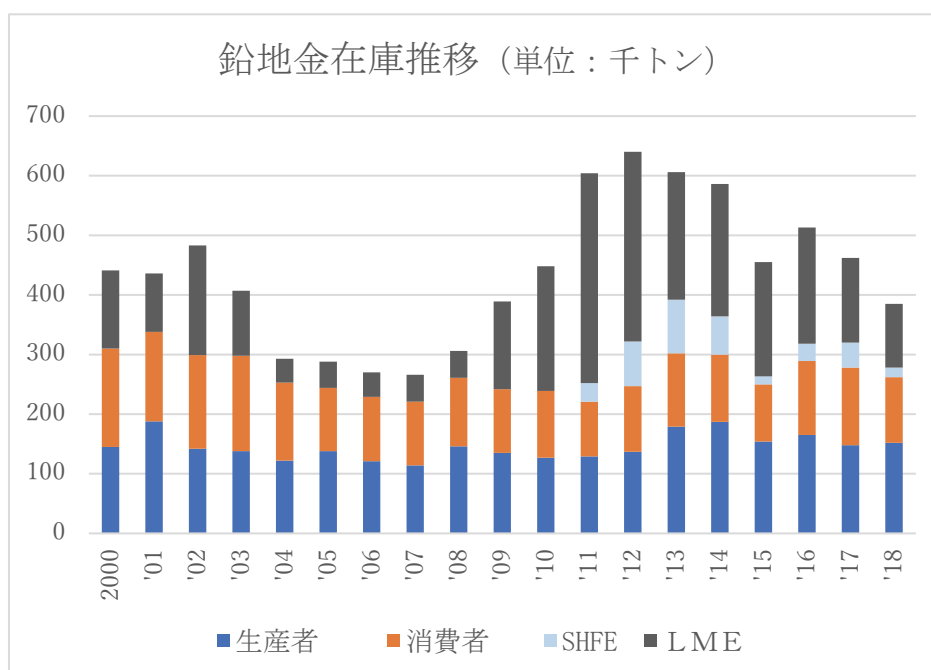
図 3-4-1-4 地域別亜鉛地金生産量

次に、世界の鉛地金の需給バランスを図 3-4-1-5 で示す。また、鉛地金在庫推移を図 3-4-1-6 で示すが、2006～2007 年の在庫薄、2012 年の積み上がりおよび以降の在庫減少傾向などは亜鉛の推移とほぼ符合している。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-4-1-5 地域別鉛地金生産量

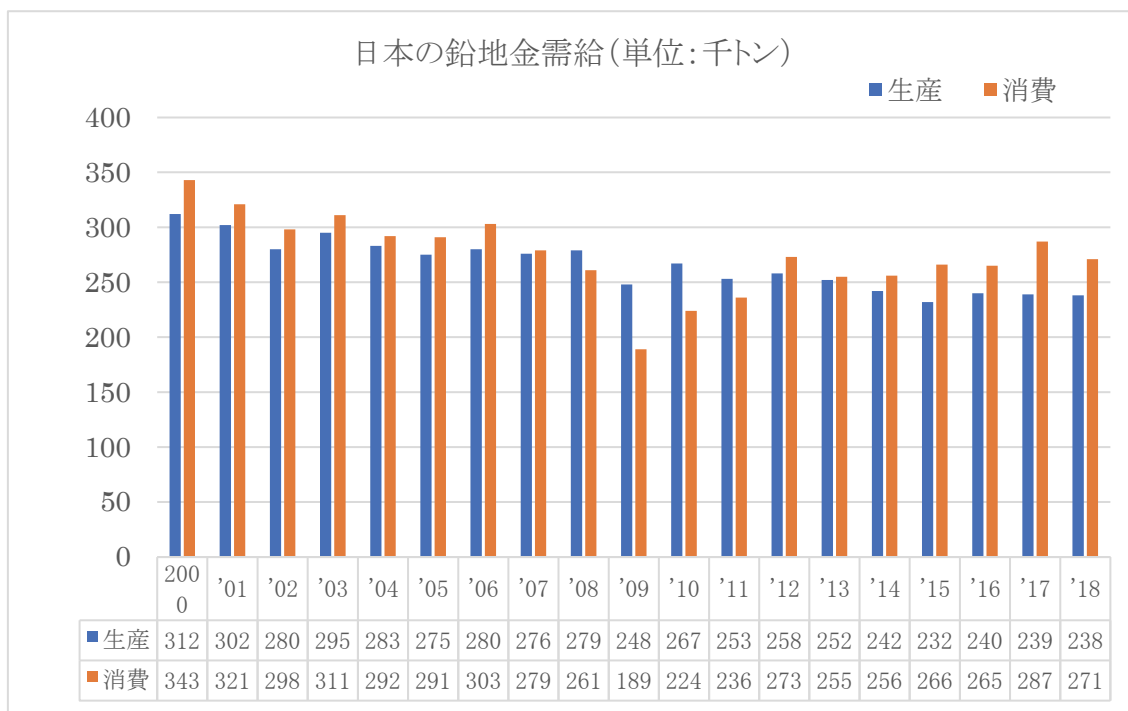


(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-4-1-6 鉛地金在庫推移

3.4.2. 鉛地金の国内需給

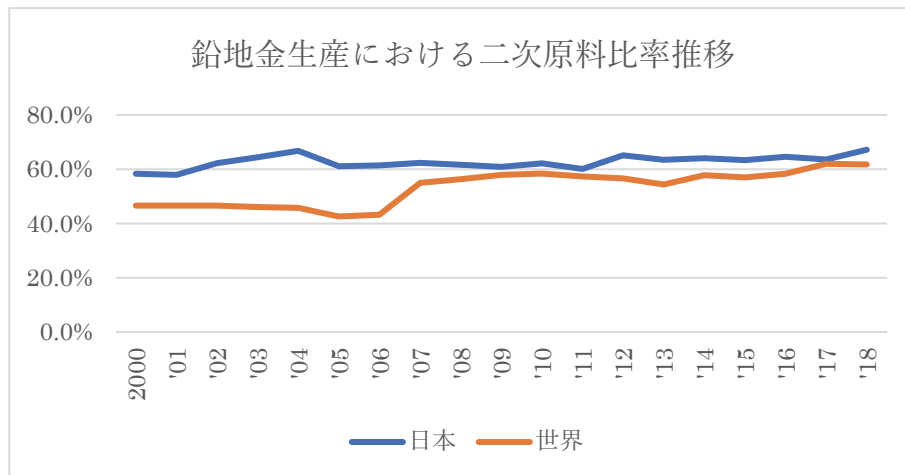
2000～2018年の日本の鉛地金需給推移を図3-4-2-1に示す。この約20年間の鉛需要は2009年までは減少傾向だが、2010年以降は緩やかな増加傾向と見える。特に2012年以降は供給不足が継続している。鉛地金は輸入ポジションにあることがわかる。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019よりMERIJ作成

図3-4-2-1 日本の鉛地金需給推移

鉛は人体への健康被害があるとされ、特に欧州の電子・電気機器に対する規制(RoHS指令)により用途が限られてきている。使用用途はほぼ鉛バッテリーに限られることで使用後の散逸量が低減され、リサイクル率が向上するというメリットが生まれているようにも見える。日本では二次原料比率が60%を超えて推移し続けているが、世界の二次原料比率もほぼ日本の水準に到達しており、鉛は世界的にも稀な高リサイクル率メタルである。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-4-2-2 鉛地金生産における二次原料比率推移